日本ゴルフコース設計者殿堂

Japan Golf Course Architects Hall of Fame



ご挨拶

日本ゴルフコース設計者協会の30周年の節目に、これまでの日本のゴルフコースの土台を作った方達を再認識し、ゴルフコース設計者の殿堂を皆様にご紹介できることは、協会として大変喜ばしいことです。

日本にゴルフが伝わってから120数年、総計2500と云われるコースが誕生していますが、そこには必ず設計者が存在します。

その中で、色々顕著な働きをした設計者を検証しようというもので、我が国のゴルフコース設計の歴史を紹介する上で、大きな道標になるに違いありません。
唯、その選考は大変難しいことに気づき、また、各人の資料の収集にも十分でないことに気づきました。

第一回の発表としては、最小限の候補者だけに絞って、来年度から協会としてもっと研究調査を徹底し、第一回の発表者に続く存在として、毎年若干名を追加することで完成に近づけていくやり方を進めていくことにしました。

我々協会自身にとっても、もっと勉強する機会になることと期待しています。

日本ゴルフコース設計者協会
理事長　川田　太三

日本ゴルフコース設計者の紹介
Introduction of Japanese Golf Course Architects



赤星　四郎

（あかほししろう）

明治 28 年～昭和 46 年（1895 ～ 1971）

薩摩の富豪赤星弥之助の4男として生まれ、麻布中学卒業後に米国に留学しペンシルバニア大のアメリカンフットボール選手として活躍。大正時代に帰国すると日本ゴルフ界向上のために力を注いだ。1926、28年日本アマに優勝。コース理念は「地形、高低差がコースの命」「アンジュレーションこそがゲームそのもの」だった。戦前の設計に函館GC、仙塩GC、熱海GCなどがある。

主なコース設計

函館GC（1927）、霞ヶ関CC東（1929＊共同設計）、仙塩CC浦霞（1935）、熱海GC（1939）、箱根CC（1954）、富士CC（1958）、桜ヶ丘CC（1960）、霞ヶ浦国際GC（1960）、東京国際CC（1961）、本厚木CC（1962）、芥屋GC（1964）、阿蘇GC（1966）、程ヶ谷CC（1967）、御殿場GC（1971）、伊豆にらやまCC東・中（1981）



富士カントリークラブ(1958)



赤星　六郎

（あかほしろくろう）

明治 31 年～昭和 19 年（1898 ～ 1944）

赤星四郎より3歳年下で、米国のプリンストン大に留学。1924年3月パインハーストCCで行われたスプリングトーナメントに出場し見事優勝。帰国後、兄の四郎と共にゴルフ界の発展に尽くした。1927年日本オープンに2位の浅見緑蔵プロを10打引き離して優勝を果たしている。1930年に来日したチャールズ・H・アリソンと行動を共にして多くの知識を吸収している。

主なコース設計

我孫子GC（1930）、相模GC（1931）、藤澤CC（1932）



我孫子ゴルフ倶楽部(1930)



チャールズ・ヒュー・アリソン

(Charles Hugh Alison)

1882 ～ 1952

オックスフォード大で造園学を学んでいる。全英アマチュア、英米アマチュア対抗戦などの代表選手としても活躍しイングランドアマを2回制覇している。東京GCの移転に伴い招聘され日本に1930年に来日。東京GC朝霞を設計した他に廣野GC、川奈の富士なども設計。地質調査、コース構築、灌漑、芝の管理、散水など日本のゴルフ界にもたらした功績には大きいものがある。

主なコース設計

東京GC朝霞(1932)、廣野GC(1932)、川奈HGC富士(1936)、改造勧告/霞ヶ関CC東、藤澤GC、鳴尾GC、茨木CC西



川奈ホテルゴルフコース 富士コース(1936)



和泉　一介

（いずみいちすけ）

明治 38 年～昭和 56 年（1905 ～ 1981）

千葉大学で造園を学び、1933年砧GCに係りその後、井上誠一の下でコース設計を学ぶ。代表作は袖ヶ浦CC袖ヶ浦、飯能GC。昭和27年に工事が始められた鷹之台CCは井上誠一の設計だが造成途中で和泉一介が引き継ぎ完成させている。また武蔵CC笹井の基本設計は井上誠一だが詳細設計は和泉一介が行っている。

主なコース設計

袖ヶ浦CC袖ヶ浦(1960)、飯能GC(1960)、常陽CC(1961)、総成GC東・西(1964)、津久井湖GC(1965)、長岡CC(1966)、三原CC(1968)、静岡C浜岡(1969)、カバヤGC(1974)、ひかみCC(1974)、札幌台CC(1975)、唐沢GC三好(1975)、黒磯CC(1975)、那須黒羽GC(1975)、上武CC(1976)、メイレイクヒルズCC(1976)、伊豆大仁CC(1976)、ふじ杉ノ郷CC(1977)、上総CC(1977)、島津GC(1978)、セブンハンドレッドC(1980)、茂原CC(1987)



袖ヶ浦カンツリークラブ袖ヶ浦コース(1960)



井上　誠一

（いのうえせいいち）

明治 41 年～昭和 56 年（1908 ～ 1981）

高校時代に嗜眠性脳炎を患い叔父の井上達四郎に「治療と運動にはゴルフが良い」とアドバイスされゴルフを始める。川奈ホテルに逗留していた時にチャールズ･H･アリソンと出会いコース設計に興味を持ち後にコース設計を職業とした。アリソンの図面を熟読、研究し、東コースを改造中のジョージ･ペングレースの作業をつぶさに観察することでコース設計の知識を蓄えていったという。

主なコース設計

霞ヶ関CC西（1932）、那須GC（1936）、大みかGC（1936）、川崎国際生田緑地G（1952）、山口CC（1952）、大洗GC（1953）、愛知CC（1954）、日光CC（1955）、西宮CC（1955）、龍ヶ崎CC（1958）、鷹之台CC（1958）、札幌GC輪厚（1958）、武蔵CC豊岡（1959）、枚方CC（1959）、武蔵CC笹井（1959）、大利根CC（1960）、桑名CC（1960）、茨木CC西（1961）、湘南CC（1961）、よみうりGC（1961）、戸塚CC（1962）、赤倉GC（1963）、東京よみうりCC（1964）、春日井CC（1964）、室蘭GC白鳥（1965）、天城高原GC（1965）、伊勢CC（1965）、瀬田GC東･北（1967）、いぶすきCC開聞（1968）、佐賀CC（1971）、鶴舞CC（1971）、烏山城CC（1973）、札幌GC由仁（1974）、南山CC（1975）、葛城GC（1976）



大洗ゴルフ倶楽部(1953)



上田　治

（うえだおさむ）

明治 40 年～昭和 53 年（1907 ～ 1978）

茨木中学の時、背泳ぎ100メートルで日本記録樹立。20歳で極東オリンピック上海大会に出場している。京都大で林学、造園を学び恩師の勧めで在学中に廣野GCの造成現場に助手として参加し、完成後はグリーンキーパーとして働いた。ベルリンオリンピックでは水泳の審判として参加し、競技後に9カ月に渡り欧米のコースを視察。この時に得た知識がコース設計につながったといえる。

主なコース設計

門司GC(1934)、大阪GC淡輪(1937)、森林公園G(1955)、古賀GC(1956)、下関GC(1956)、白浜GC(1956)、佐世保CC石盛岳(1957)、奈良国際GC(1957)、GDO茅ヶ崎GL(1957)、松山GC川内(1958)、飛鳥CC(1959)、緑ケ丘CC守山(1959)、花屋敷GCよかわ(1959)、若松GC(1959)、箕面GC(1960)、茨木国際GC北(1960)、岐阜CC(1960)、宇部72CC阿知須(1960)、四日市CC(1960)、小野GC(1961)、よみうりCC(1961)、小倉CC(1961)、樽前CC南・中(1962)、茨城GC(1962)、米子G(1963)、広島CC八本松(1963)、出水GC(1963)、熊本中央CC(1963)、長良川CC(1963)、小郡CC東(1964)、新居浜CC(1964)、別府国際GC扇山(1964)、岐阜関CC(1964)、長崎国際GC(1964)、宇治CC(1965)、名四CC(1966)、武庫ノ台GC(1966)、橋本CC(1966)、長岡CC(1966)、奈良万葉CC(1967)、賢島CC(1969)、奈良CC五條(1969)、大山GC(1970)、小野東洋GC(1971)、有馬ロイヤルGC(1972)、塩嶺CC(1973)、播州東洋GC(1973)、洲本GC(1965)



大阪ゴルフクラブ(1937)



大谷　光明

（おおたにこうみょう）

明治 18 年～昭和 36 年（1885 ～ 1961）

浄土真宗西本願寺21世門主の3男として生まれ、明治40年から3年間英国に留学し、その時に覚えたゴルフは日本のゴルフ草創期に大きな影響を与えた。大正13年JGA設立に尽力し、ゴルフ研鑽を目的として翌14年再度英国に赴きコース設計の技法を学んだ。東京GC（駒沢）の移転に伴い新コースの設計を巨匠ハリー・コルトに依頼した結果チャールズ・H・アリソンを招聘。

主なコース設計

東京GC（1914）、川奈ホテルGC大島（1928）、名古屋GC和合（1929）、箱根湯の花G（1952）、大箱根CC（1954）、加古川GC（1957）



川奈ホテルゴルフコース大島コース（1928）



加藤　俊輔

（かとうしゅんすけ）

昭和 8 年～平成 30 年（1933 ～ 2018）

熊谷組に入社した当初は橋梁担当のエンジニアだったが、大学在中からゴルフに熱中していた事もあり、昭和49年太平洋C設計部に入ると軽井沢、高崎、益子、御殿場とコースを設計。昭和61年に独立して設計事務所を設立。「自然との共存、協調、自然から得たものは自然に返す」をポリシーとした。平成5年日本ゴルフコース設計者協会を設立して初代理事長に就任しゴルフ界の発展に尽くした。

主なコース設計

阪奈CC(1974)、太平洋C&A益子(1976)、太平洋C御殿場(1977)、篠山GC中・東(1980)、岐阜稲口GC(1986)、滝の宮CC(1987)、久慈川CC(1987)、美杉GC(1988)、利根GC(1988)、喜入CC(1989)、GCセブンレイクス(1989)、栃木ノースヒルズGC(1989)、明日香CC(1990)、ザ・GC竜ヶ崎(1990)、GCゴールドウイン(1991)、JFE瀬戸内海GC(1991)、北海道GC(1991)、東条GC(1991)、GCゴールドウィン(1991)、九州GC八幡(1992)、九州GC小岱山(1992)、ヤシロCC(1993)、IWAFUNEGC(1993)、朝日GC広島(1993)、棚山GC(1994)、ザ・パークヒルGC(1996)、グリーンヒル和歌山GC(1996)、野母崎GC(1997)、トミーヒルズGC鹿沼(1999)、サンフォレストGC(1999)



JFE瀬戸内海ゴルフ倶楽部(1991)



ハリー・C・クレーン

生没年不詳

ジョー・E・クレーン

明治 25 年～昭和 55 年（1892 ～ 1980）

貿易商だった父とともに横浜から神戸に移住したのが明治32年。長兄ハリー、次兄はバーティ、末がジョーで鳴尾GC創設会員38名の中に3兄弟が含まれている。神戸鳴尾浜から移転した鳴尾GC猪名川の設計はハリーを中心としたクレーン兄弟によるものだ。ジョーは名テニスプレーヤーでもあり関西シニア、関西グランドシニアに優勝している。ジョーは生涯24コースを設計している。

主なコース設計

ハリー・C・クレーン　鳴尾GC（1930）／ジョー・E・クレーン　垂水GC（1920）、岡山霞橋GC（1930）、花屋敷GC（1959）、泉南CC（1960）、西宮高原GC（1961）、三好CC（1961）、大熱海国際GC（1961）、さなげCC（1964）、宝塚高原GC（1964）、千刈CC（1965）、日本ダイヤモンドGC（1965）、日清都CC（1966）、月ヶ瀬CC（1967）、穂高CC（1972）、三田レークサイドCC（1973）、MGM MANIWA（1973）、富士CC明智GC明智（1974）、富士C明智GC明智（1974）、るり渓GC（1975）、こんぴらレイクサイドGC中・東（1976）、日本海GC稲葉山（1978）、篠山GC西（1980）



鳴尾ゴルフ倶楽部（1930）



小寺　酉二

（こでらゆうじ）

明治 30 年～昭和 51 年（1897 ～ 1976）

慶応大卒業後にプリンストン大に留学しゴルフ部に所属。アマチュアゴルファーで活躍し、昭和9年の日本アマチュアでは赤星六郎に敗れている。戦後は相模CC、相模原GCで理事長を務め、JGAでは国際競技、ルールなどでゴルフ界を牽引した。コース設計では1グリーンを主張し、相模原GCでは高麗芝、狭山GCではベント芝と一部高麗芝による大きな1グリーンを実現して多くの人を驚かせた。

主なコース設計

軽井沢GC（1931）、相模原GC東（1957）、狭山GC（1959）、嵐山CC（1962）、鹿沼CC（1964）、東京五日市CC（1973）



軽井沢ゴルフ倶楽部(1931)



小林　光昭

（こばやしみつあき）

昭和４年～令和３年（1929 ～ 2021）

日本緑化土木の設立に関わりゴルフ場の設計を始めた。昭和45年、神奈川県のレイクウッドGCで米国のコース設計家テッド・ロビンソンに出会い、池など水を多用するハザードの造りに驚嘆し、以後池を大胆に採り入れたコースを多く生み出した。大きな池はハザードの役割りだけではなく景観も高めるという効果もありいつしか“水の魔術師”と呼ばれるようになった。

主なコース設計

佐野GC(1974)、勝山御所CC(1975)、筑紫ヶ丘GC(1976)、名阪ロイヤルGC(1981)、東海CC(1987)、奈良ロイヤルGC(1987)、万壽GC(1987)、青森ロイヤルGC(1988)、ビッグワンGC信楽(1988)、能登島G&CC(1989)、湯の浦CC(1989)、米原GC(1989)、アスレチックガーデンGC(1990)、青島GC(1991)、知覧CC(1991)、ザプリビレッジGC(1991)、サザンヤードCC(1991)、グリッサンドGC(1991)、阿山CC(1992)、花生CC(1992)、中峰GC(1993)、藤原GC(1993)、ユニ東武GC(1993)、長崎パークCC(1994)、和木GC(1995)、サンリゾートCC(1995)、溝辺CC(1995)、双鈴GC関(1996)、滝野C迎賓館(1996)、富士エクセレントC伊勢大鷲(1998)、太平洋アソシエイツシャーウッドC(2001)



米原ゴルフ倶楽部(1989)



佐藤　昌

（さとうあきら）

明治 36 年～平成 15 年（1903 ～ 2003）

東京帝国大学農学部農学科卒業、内務省復興局で満州国都市計画、都市建設局で公園、造園に従事、戦後は神奈川県、建設省で都市計画、公共緑地に携わる。東京農業大学教授、日本造園学会会長、日本公園緑地協会会長、ランドスケープコンサルタンツ協会会長を歴任。戦前からコース設計を行う。都市計画、公園、造園、ゴルフコースなどの著書は多数ある。

主なコース設計

筑波CC（1959）、春日台CC（1961）、岡山CC桃の郷（1962）、いわきGC（1964）、長竹CC（1971）、関越ハイランドGC（1972）、大平台CC（1974）、秋保CC（1974）、函館シーサイドCC（1975）、大宝塚GC（1977）、花尾CC（1977）、宮の森CC（1991）



筑波カントリークラブ(1959)



佐藤　儀一

（さとうぎいち）

明治 32 年～昭和 42 年（1899 ～ 1967）

米国留学中の大学3年生の時にゴルフを始めたが、翌年の1931年にサンフランシスコ市民大会で2位になる上達ぶりで、翌年大会では優勝をしている。帰国後に関西アマ優勝、昭和11年から3年連続に15年と4回日本アマを制した。「フェアウェイの幅はボールの落下地点があればいい」とし「飛ばすことは20パーセントなり」と明言するほどアプローチの名手だった。

主なコース設計

広島GC鈴ヶ峰(1952)、芦屋CC(1952)、白浜GC(1956)、片山津GC片山津(1957)、城陽CC(1959)、徳島GC吉野川(1959)、茨木国際GC東・西(1960)、四条畷CC(1960)、相生CC(1960)、芦の湖CC(1960)、田辺CC(1960)、松永CC(1961)、スポーツニッポンCC(1961)、東海CC(1961)、嬉野CC(1961)、玉野C(1961)、東名古屋CC(1964)、和歌山CC(1964)、下呂CC(1964)、鳴門CC(1964)、志度C(1964)、日本ラインGC(1966)、長船CC(1967)、伊勢湾CC(1974)、美作CC(1976)



城陽カントリー倶楽部(1959)



富澤　誠造

（とみざわせいぞう）

明治 43 年～昭和 53 年（1910 ～ 1978）

大正15年、千葉県内に武蔵野CC六実コースが開場し、14歳頃からグリーンキーパーとして働く。昭和25年安達建設設計部に在籍していた井上誠一の下で川崎国際CCの造成監督として働き、井上誠一から設計術を学んだ。昭和32年千葉CC川間コースが最初の設計コースだった。息子の富澤廣親との共作で100コース以上手掛けている。管理しやすいコース設計を心掛けていた。

主なコース設計

千葉CC川間(1957)、高坂CC(1958)、府中CC(1959)、栃木CC(1959)、琵琶湖CC(1959)、小田原湯本CC(1961)、藤ヶ谷CC(1961)、仙台CC青葉山(1962)、富谷CC(1963)、白河高原CC(1963)、長野CC(1964)、総武CC総武(1964)、新津CC(1965)、安達太良CC(1966)、松本CC(1971)、阿寒CCまりも・丹頂(1972)、東蔵王GC(1973)、島ヶ原CC(1974)、高松グランドCC(1974)、有明CC大牟田(1974)、熊本空港CC(1974)、サニー CC(1975)、菅平グリーンG(1975)、セント旭川GC(1975)、太平洋C有馬(1975)、北山CC(1975)、富士C明智GC賑済寺(1976)、大山平原GC(1976)、賀茂CC(1976)、グランドチャンピオンGC(1977)、クレストヒルズGC(1977)、蒲生GC(1977)、太平洋C六甲(1977)、福島石川CC(1978)、中日CC(1979)、ラフォーレ白河GC(1987)、ミサワ北海道GR(1995)



琵琶湖カントリー倶楽部(1959)



藤田　欽哉

（ふじたきんや）

明治 22 年～昭和 45 年（1889 ～ 1970）

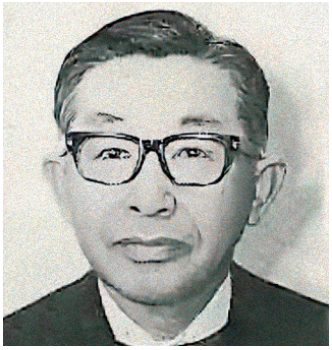
大学卒業後にアメリカに留学。その後ニューヨークで貿易関係の仕事についていたが、この時代にゴルフに親しみ帰国後に霞ヶ関CCの創設に関わった。昭和4年に開場した霞ヶ関CC東は、会員により分担で設計されたが藤田が受け持ったのは6、8、16、17番ホールだった。ちなみに東コースは来日中のアリソンにより改造勧告を受け、倶楽部はアリソンの申し出を快諾し改造を実施した。

主なコース設計

霞ヶ関CC東（1929＊共同設計）、那須GC（1936 ）、千葉CC野田（1954）、伊豆国際CC（1961）、東松山CC（1963）、静岡CC島田（1965）、紫雲GC加治川（1965）、習志野CCキング・クィーン（1965）、千曲高原CC（1969）



紫雲ゴルフ倶楽部(1965)



間野　貞吉

（まのていきち）

明治 36 年～昭和 54 年（1903 ～ 1979）

東京帝国大で建築を学び、大正12年の関東大震災復興のため耐火建築の融資、設計を主とする建築復興助成会社で働く。昭和7年論文「ゴルフ場の施設」で工学博士となる。戦後は大林組設計部に入り、昭和35年以降は間野貞吉名義でコース設計をしている。昭和7年から相模CCの会員で倶楽部の理事、グリーン委員長などを務めた。生涯32のコースを手掛けている。

主なコース設計

小山GC（1960）、戸塚CC東（1961）、熊谷GC（1962）、倉敷CC（1963）、札幌国際CC島松C（1963）、帯広CC新嵐山（1963）、諏訪湖CC（1963）、伊賀GC（1964）、総成GC南（1964）、鳥取GC（1964）、朝陽CC（1966）、新沼津CC（1967）、日立GC（1967）、玉造温泉CC（1964）、道後GC（1968）、鈴蘭高原CC（1971）、千里浜CC（1971）、新大阪GC島本（1973）、大分中央GC（1973）、羊ヶ丘CC（1974）、ひら高遊原CC（1974）、赤穂国際CC（1975）、岐阜本巣CC（1975）、岡山御津CC（1975）、福知山CC（1976）、伊勢中川CC（1977）、山東CC（1977）



熊谷ゴルフクラブ(1962)



丸毛　信勝

（まるものぶかつ）

明治 25 年～昭和 52 年（1892 ～ 1977）

大分臼杵藩士で町奉行の家柄だった。東京帝国大農学部で学び29歳で農学博士になっている。なかでも蝶などの権威で日本昆虫図鑑の制作を手掛けている。臼杵中学の後輩海軍中尉吉良俊一から芝の害虫の調査を依頼され欧米の芝を視察。砂地でも芝が育つ技術を確立させた。川奈ホテル富士コースの造成を担当し、戦後になりコース設計を始めている。9ホールの設計を多く手がけている。

主なコース設計

大富士G(1954)、高松CC城山(1954)、広島CC西条(1955)、新潟GC(1958)、高知GC正蓮寺(1958)、枚方国際GC(1959)、根室GC(1960)、武蔵野GC(1960)、芦原GC海・湖(1961)、登別温泉GC(1961)、中山CC(1961)、川西GC(1962)、帯広CC新嵐山(1963)、鳴子CC(1965)、北見CCイン(1966)、甲賀CC(1966)、気仙沼CC(1967)、大舘CC(1968)、真駒内CC(1969)、西仙台CC(1970)、朱鷺の台CC(1972)、伊達CC湘南(1973)、温根湯国際CC(1974)、スコットヒルズGC石狩高岡(1974)、グリーンヒルCC(1975)、宇和島CC三間(1977)、津軽CC百沢(1984)



広島カンツリー倶楽部 西条コース(1955)



三好　徳行

（みよしのりゆき）

明治 44 年～昭和 60 年（1911 ～ 1985）

九州帝国大時代からゴルフを始め、昭和28年から30年まで日本アマチュアを3連覇した名手。小柄な体から放たれるショットは正確で“精密機械”と異名され、スポーツ用具メーカーではゴルフボールを担当していた。最初のコース設計は昭和32年ブリヂストンCC。男子ツアーの開催コースとして名高く、難易度の高い富士桜CCを昭和50年に設計している。

主なコース設計

ブリヂストンCC（1957）、宮崎CC青島（1961）、蔵王CC（1961）、宮島CC（1962）、蓼科高原CC（1963）、宮島志和CC（1971）、函館CC横津（1972）、今治CC（1972）、新宇都宮CC（1973）、筑紫野CC（1974）、大分竹中GC（1975）、勝山御所CC（1975）、ニセコG＆R（1974）、菊池高原CC（1974）、赤坂レイクサイドCC（1975）、富士桜CC（1975）、四街道GC（1980）、ロイヤルスター GC（1987）



ブリヂストンカンツリー倶楽部(1957)



保田　与天

（やすだよてん）

明治 22 年～昭和 44 年（1889 ～ 1969）

高層建築工法を学び終戦の昭和20年まで大倉土木に在籍。大正末期、満州国に赴任している時代に自らコースを造りゴルフを始めている。満州大連の星ヶ浦GCのクラブ選手権を2連覇、宝塚GCのクラブ選手権にも勝っている。戦後コース設計を始めたが、自然と借景を巧みに活かして雄大さを演出する手法を得意とした。くまもと阿蘇CC湯の谷コースや三重CCが代表作といえる。

主なコース設計

芦屋CC（1952）、福岡CC和白（1952）、くまもと阿蘇CC湯の谷（1952）、霧島GC（1957）、有馬CC（1960）、三重CC（1960）、浜松GC（1965）



三重カンツリークラブ(1960)

JAPANESE SOCIETY OF GOLF COURSE ARCHITECTS
JSGCA

日本ゴルフコース設計者殿堂
Japan Golf Course Architects Hall of Fame
発　行：2023年12月7日
発行元：日本ゴルフコース設計者協会

JAPANESE SOCIETY OF GOLF COURSE ARCHITECTS

JSGCA

日本ゴルフコース設計者協会
〒106-0044 東京都港区東麻布 3-3-6-503
Phone 03-6230-9382 Fax. 03-6230-8416
〈URL〉https://www.jsgca.com